【乳汁検査まとめ】

はじめに

先月に引続き、2024 年 1 月~6 月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

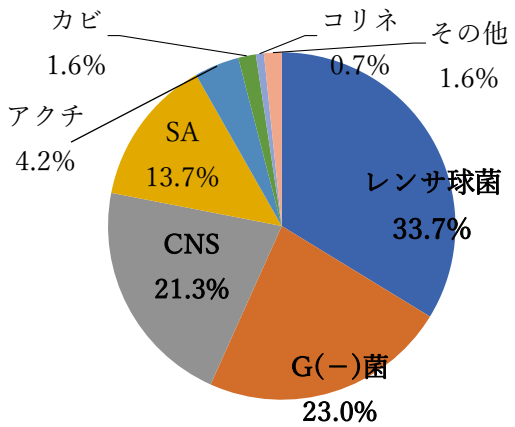
検査頭数は 809 頭、検査分房数は 1614 分房で、菌の生えた分房数は 789 分房、菌の検出されなかった分房数は 825 分房でした（それぞれ重複を含む）。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2 番目に多かったのは G(－)菌（※2）でした。次いで CNS、SA と続きます。レンサ球菌、G(－)菌、CNS、SA で全体の約 90%を占める結果となりました。

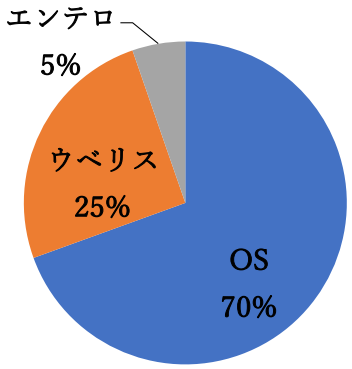


グラフ 1　原因菌種割合

※1　レンサ球菌には OS、ウベリス、エンテロコッカスを含む

※2　G(－)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む

※　アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記

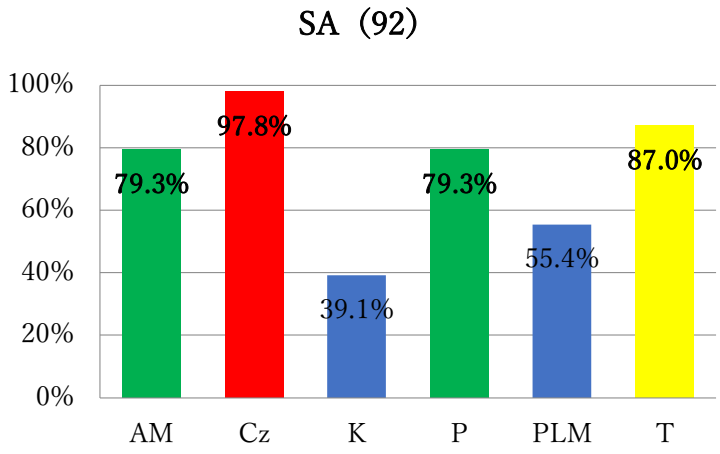


グラフ 2　レンサ球菌割合

※エンテロコッカスをエンテロと表記

グラフ 1 にてレンサ球菌としたものの内訳です。レンサ球の発生分房数は 226 でした。OS が 157 分房で、割合は 70%となり最多でした。ウベリスは 57 分房で、割合は 25%でした。エンテロコッカスは 12 分房で、割合は 5%でした。

感受性割合

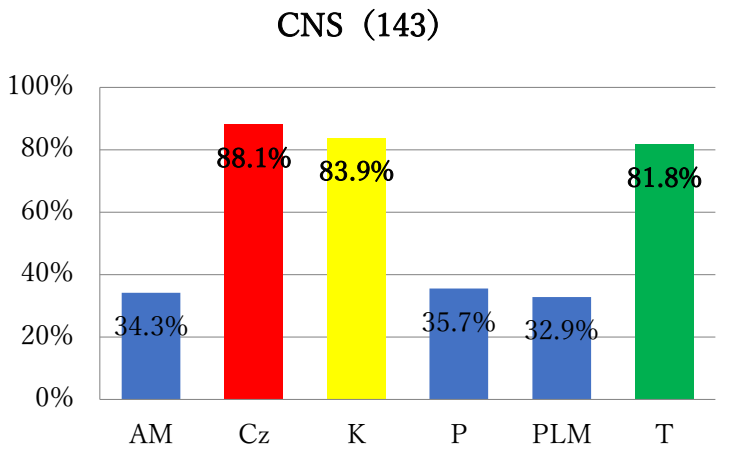


グラフ 3 SA 感受性割合

感受性割合の上位 3 つの薬品は Cz(セファメジン・セファゾリン)、T（OTC 注・軟膏）AM（アンピシ

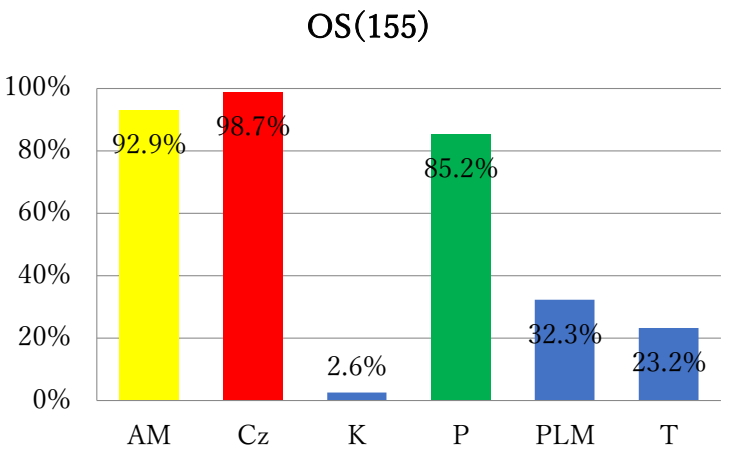
Total Herd Management Service

リン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）となりました。Cz(セファメジン・セファゾリン)は 97.8%、T（OTC 注・軟膏）も 87.0%と高い感受性割合になりました。



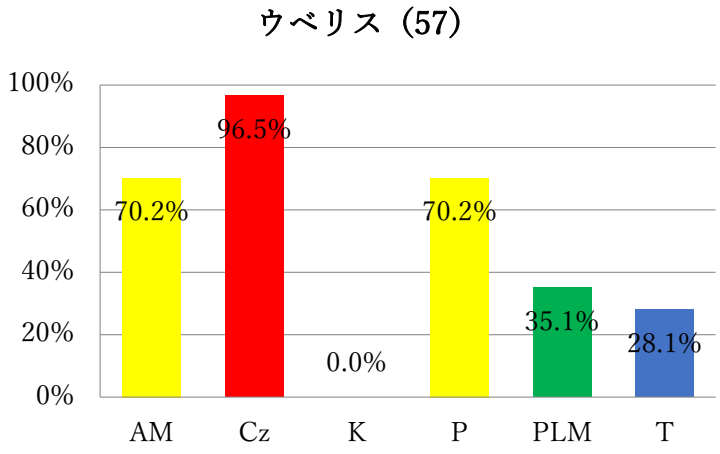
グラフ 4　CNS 感受性割合

CNS 感受性割合の上位 3 つの薬品は Cz(セファメジン･セファゾリン)､K(カナマイシン･タイニーPK)、T（OTC 注・軟膏）となりました。Cz(セファメジン･セファゾリン)､K（カナマイシン・タイニーPK）は SA と同様の結果になりましたが、感受性割合はどちらも SA よりは低くなっています。



グラフ 5　OS 感受性割合

OS の感受性割合は Cz(セファメジン・セファゾリン)、AM（アンピシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）がどれも 85%以上となりました。T(OTC 注・軟膏)は 30%以下となりました。



グラフ 6　ウベリス感受性割合

ウベリスの感受性割合は Cz(セファメジン・セファゾリン)、AM（アンピシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）となり、OS と同様の結果となりました。Cz は OS 同様 95%以上の感受性ですが、AM（アンピシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）は共に 70.2%となり、OS よりも低い結果となりました。

最後に

グラム陽性菌に対しては菌種に関わらず Cz(セファメジン･セファゾリン)が効果的であるという結果になりました。グラム陰性菌で感受性割合の高かった K（カナマイシン・タイニーPK）は CNS 以外では低い結果となりました。そのためグラム陽性菌か、グラム陰性菌かの判断は重要になります。

暑く、湿気の多い日が続いており、乳房炎が増加すると思われます。なかなか治癒しない乳房炎に対しては早い段階での乳汁検査をおすすめします。どうしても乳房炎が増加する季節ですので、無駄なく早急な治療を目指しましょう。

富田大祐

Total Herd Management Service